

## 日本英語教育史学会 会報

285

2018 年 2 月 6 日

**HiSELT** Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562  
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室  
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191  
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)  
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873  
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト [www.hiset.jp](http://www.hiset.jp)

## 第266回研究例会報告

2018 (平成 30) 年 1 月 20 日 (土), 順天堂大学 お茶の水キャンパス第 2 教育棟 502 教室 (東京都文京区) において第 266 回研究例会が開催されました。参加者は 24 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 青田庄真氏 (日本学術振興会特別研究員 DC・東京大学大学院生) が「日本における外国語教育の政治力学: 戦後の自治体政策過程を中心として」というタイトルでお話しされました。続いて島岡丘氏 (筑波大学名誉教授シニア・プロフェッサー) による「岡倉由三郎氏語る「英語上達の第一条件」」の発表が行われました。司会は藤本文昭氏 (横浜翠陵中学・高等学校) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は青田氏, ②は島岡氏の発表への感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①発表題目, 殊にその副題中にある「戦後の」と「自治体政策過程」という表現から, 学習指導要領が「試案」であった時代に, 各自治体が学校現場の指針となるようなガイドブックを作成しているが, それを収集し, 分析しようとするものかと期待していたところ, どうやら時間的にも「戦後の」という幅の広いものよりはかなり限定的で, 且つ, 次代的には現代に近いものであったので, もっと絞り込んで, 内容が捉えやすい題目に改める必要があると感じた。さらに, これが博士論文の一部をなすということであったが, 博論全体のなかでこの史的分析がどれくらいの比率を占め, どこにどう位置付けられるのかということの展望が得難いと思った。質疑応答にもあったように, 限られた時間内に作成することが求められる博論という条件下に, まずはこの点を明確にして取りかかるべきかと考える。そのうえで, 取り扱う時代からして, 生き証人や生きた素材が得やすいと

いう有利な条件を生かして, この学会で発表すべきものは何なのかをも弁えつつ, 形あるものにまとめられることを期待したい。

(Dragon)

◆①中央に対し自治体の英語教育は様々な方法で実践されていることがわかり, 自治体によって様々である英語学習に対して政治的要因, 社会経済要因, 統計的分析等よく調査され外国語教育政策を総体的に捉えようとしている点で意義深い。これからのまとめが楽しみです。

(K.S.)

◆①教育と政治の関係は時代のニーズも反映しているイメージがあり, その通りであるのと同時に, 東京等でなく四国の英語導入率が高いのは興味深かったです。ジョン万次郎のブームか何か (高知出身) …? と勝手に想像しましたが, 国が指定する研究開発校がある等の事情があり合点がいきました。 (竹下順子)

## &lt;発表を終えて&gt;

青田 庄真 (東京大学大学院生)



この度は、貴重な東京例会の機会に発表の場を頂き、誠にありがとうございました。この度の発表では、執筆中の博士論文のうちの歴史的な部分に焦点をあてて発表させて頂きました。従来の研究では、学習指導要領を中心として外国語教育政策を中央集権的に捉えることが一般的でしたが、本研究では、地方独自の取り組みによる政策の波及を経時的に捉えることにより、必ずしも中央集権的ではない側面を指摘することを試みました。これまでは私も中央政府への関心が強く、本学会でもそれに関する発表をして参りましたが、自治体を議論の俎上に載せることで、政策研究が少しは立体的になってきたのではないかと考えております。発表後、「地域区分」の扱い方に関して特に、興味深いご助言を複数頂きました。今後は、それらご助言頂いた点についてあらゆる角度から改めて精査し、博士論文の完成に向けて邁進していく所存です。例会で発表させて頂くにあたり、改めて自分の研究の歴史的な部分に向き合ったことはそれだけでも有意義でしたが、当日質の高い質疑や励ましのお言葉を頂いたことで、日本英語教育史学会の魅力を再認識した次第です。今後はより積極的に発表させて頂きますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆①外国語教育政策を論じる上で、これまであまり視野に入っていなかった地方自治体の施策に斬新な方法でメスを入れられた功績は大きいと思います。とりわけ、自治体担当者から大量のアンケートを集め、精緻に分析しているので説得力があります。その上で、いくつか意見を申し述べます。(1)タイトルが大きすぎると思いました。たとえば「戦後の自治体における外国語教育の推進政策」などと限定してはどうでしょうか。(2)自治体の政策は政府の政策と乖離や対立があるのか、それとも基本的には補完的なのかを明確にすべきだと思います。私見では、補完的ではないかと思えます。(3)今回は現状分析的な内容でしたので、これから史の変遷が明らかになれば、と期待しております。

(みかん舟)

◆①調査の回収率がとても高いことに驚きました。発表の中で赤いペンで回収を促したということは伺っていますが、他に何か成功の要因があったらお聞かせ下さい。(私自身も回収率を上げることに苦労していますので) 興味深い発表ありがとうございました。(M)

◆①以前より青田氏の発表を継続的に拝聴し

ています。デジタルなテキスト・マイニングを活用して大規模な survey を行うことに加えて文書によるアンケートや現物資料など地道な調査を行い、研究に綿密さと独自の解釈が加わってきたと感じました。研究をしていると、一つ開いたドアの向こうにまた新しいドアが見えてきて、その先は際限のないもののように感じます。フロアからご指摘もあった通り、これらのうちのどこかに絞るだけで有益な学位論文になると思います。今後は、さらに深みを極められることを期待いたします。

(insulae flumen)

◆②画家として偉大な岡倉天心の弟由三郎が英語教育で活躍していたお話でした。「正確な発音」を重要視しており、それを形にしたものが SKT で、カナを見て発音練習できるという日本人には有難く楽しいものと思います。

(竹下順子)

◆②母校の先達である岡倉由三郎の発音教育面での貢献を、島岡音声学の見地から再評価した意義は大きいと思います。何よりも、島岡先生の旺盛な研究意欲と発表への熱意に感動しました。(みかん舟)

&lt; 発表を終えて &gt;

島岡 丘 (筑波大学名誉教授シニア・プロフェッサー)

岡倉由三郎が語る「英語上達の条件」を具体化しようとして検討した結果、アメリカ構造言語学者 Charles C. Fries の主張に再会しました。即ち、“the mastery of the sound system”です。何と力強い表現でしょう。岡倉先生は『英語青年』(1928年1月号)でカナで表記できないものは、f, l, r, th の4種であるとされましたが、後輩の私が、20数年間研究した結論はそれぞれ、f=「ウ°」、l=「ズル」、r=「ッル」、th (θ, ð)=「ス、ズ」です。当日私の発表は体調不良のため十分申しあげることが出来ませんでした。岡倉先生のご著書を通して、日本人は少なくとも「上達した英語」を目指していただきたいと思っております。



◆②カタカナ表記に対する島岡先生の熱意を感じるお話しでした。岡倉の発音に対する未解決な部分の解明として島岡先生なりの工夫によるカタカナ表記で表しているのは面白く分かり易いと感じます。(K.S.)

◆②ELEC に掲載された資料を読ませていただいた上で例会に臨みました。島岡先生のご発表の背景が理解できていたつもりなので、より興味深くお話を伺えました。近年の研究で岡倉由三郎の音声教育面での業績が取りざたされる機会が増えているように感じます。岡倉の研究がどのように継承されていたのか、現代に至る道筋が明らかになるとより多くのことが学べると思いました。(insulae flumen)

◆②岡倉由三郎の『英語発音練習カード』とご自身の SKT 法を関連づけられてのご発表であ

ったが、参加者のなかには岡倉のカードがどのようなものかについて知るところのない人もいたかと思われ、もう少し詳しくこの『英語発音練習カード』の内容をご照会いただくとか、あるいは、その現物を回覧していただくとかすると、ご発表の趣旨がより明白になったのではないかと。英語音声のカナ表記の歴史を踏まえつつ、音声学の理論をいかにすればより実用的なものにつなげることができるかをご提案いただいているところであるが、そのカナ表記を用いての英語音声指導の成果を統計学的分析によって提示していただき、いかにすれば歴史的研究が現代の英語教育学研究に貢献できるかをお示しいただければと期待したい。

(Dragon)

## >> 事務局より

### >> 理事会を開催

第266回研究例会に先立ち、1月20日(土)11時30分より御茶ノ水駅前のレンタルスペース RAKUNA において2017年度第1回定例理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

#### (1) 投稿論文の審査結果・学会賞候補について

今年度の審査結果ならびに学会賞の候補について、論文審査委員会より報告を受けました。その内容は4ページに掲載の通りです。

#### (2) 第34回全国大会(広島大会)について

既報の通り、来年度の全国大会は本年5月に広島市の県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」で開催されることとなっていますが、本理事会においてその概要を決定しました。

あわせて、大会参加費を以下の通り改定することを決めました。

会 員	一般：2,000 円 → 1,000 円	学生：500 円 → 無料
非会員	一般：無料 → 500 円	学生：無料のまま据え置き

広島大会の詳細は 5, 6 ページをご覧ください。

### (3) 2018 年度年間計画について

6 ページに掲載の通り、新年度の例会スケジュールを確認しました。それぞれの回の会場については、決定次第お知らせします。なお、開催日を日曜日に戻すことを検討しましたが、今年度については土曜日のままとすることを決めました。

### (4) 次期役員体制について

会長・副会長の任期満了にともない、今年度の全国大会時に開催される会員総会において役員選挙を行うことを確認しました。事務局が選挙管理を担うこととし、7 ページに掲載の通り立候補を受け付けます。

### (5) 出来成訓文庫（仮称）について

初代会長の出来成訓先生は昨年 1 月に逝去されましたが、このたびそのご蔵書を学会として寄贈いただくこととなりました。本理事会では、その管理方法について原則を検討し決定しました。

先生のご蔵書は、今後、複数の学会役員の研究室等に保管し、その目録化をめざします。また、特に若手会員の研究に資することを目的に一定のルールのもとに貸与します。詳細については追ってお知らせします。

### (6) 出来成訓著『日本英学者人名事典』について

出来成訓先生が刊行を計画されていた『日本英学者人名事典』について、その進捗状況について江利川会長より報告を受けました。

(文責：事務局長)

## )) 論文審査委員会を開催

2017 年度第 2 回論文審査委員会は、去る 1 月 20 日 (土) 11 時 30 分より御茶ノ水駅前のレンタルスペース RAKUNA において開催されました。投稿された 6 本の論考について審査したところ、2 本が論文として、4 本が研究ノートとして掲載との結果となり、今後、期限までに最終稿の提出されたものについては学会誌『日本英語教育史研究』第 33 号上で発表されます。学会誌は 5 月の全国大会に合わせて刊行の予定です。

(文責：編集委員長)

## )) 会費納入について (お礼とお願い)

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。会計年度は 4 月より翌年の 3 月までとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。未納のみなさまへのご案内は順次お届けしておりますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

なお、2年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費 一般：5,000円／学生：3,000円（学生会員は初年度に限り無料となります）

送金先 【1】 ①郵便局で払込取扱票をご利用の場合

②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873

【2】 ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合

→ ゆうちょ銀行〇一九（ゼロイチキユウ）店 [当座口座] 0132873

## 日本英語教育史学会第34回全国大会（広島大会） 参加および発表申込のご案内

2018年度の全国大会を次の通り広島市で開催します。どうぞふるってご参加ください。

期 日：2018年5月19日（土）・20日（日）

会 場：県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」（広島市中区大手町1-5-3）

- ・土曜日の記念講演は前会長の竹中龍範先生にお願いし「私の英語教育史—研究と教育と—」の演題をいただいております。竹中先生はこの3月に香川大学を定年退職されますが、これまでの歩みを振り返ってお話いただけることを楽しみにしております。
- ・記念講演に続き、特別企画として「鼎談：広島の英語教育を語る」を予定しております。小篠敏明先生、田中正道先生、三浦省五先生のお三方にご登壇いただき、それぞれのお立場から存分にお話いただきたく思っております。
- ・みなさまからの発表申し込みをお待ちしております。発表時間は質疑応答を含めて25分間です。土曜日の午後には記念講演と特別企画を予定しておりますので、発表のセッションは日曜日の午前に設定しますが、お申し込み多数の場合には午後にお回りいただくこともあります。時間帯についてご要望がございましたら、お申し込みの際にお知らせください。
- ・大会参加費を見直し、以下の通りとしました。全国各地から多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

【会 員】一般：1,000円／学生：無料      【非会員】一般：500円／学生：無料

- ・懇親会は5月19日（土）に広島市内で開催の予定です。詳細については追ってお知らせします。
- ・県立広島大学「サテライトキャンパスひろしま」は、広島市の中心部に位置しており交通至便です。JR 広島駅より市内電車（広島電鉄）で20分、「本通り」もしくは「紙屋町西」電停で下車し徒歩3分ほどです。
- ・宿泊をご希望の方は各自でお手配ください。広島市内では、観光客の増加にともない空室を見つけることが難しくなることがあります。早めのご対応をお願いいたします。
- ・大会プログラムの詳細や必要経費の納入方法等については次号の会報をお待ちください。

## ◆大会参加申込について

大会参加・発表希望者は、研究発表や懇親会参加の有無ほか必要事項を明記し、大会事務局まで 3 月 15 日 (木) 必着にてお知らせください (担当: 拝田)。

\* 郵送版の会報をお読みのみなさまには、この会報に「第 34 回全国大会参加申込書」を同封しております。郵便はがきとなっておりますので、ご投函の前に 62 円切手をお貼りくださいますようお願い申し上げます。郵便料金が値上げされております。ご注意ください。

\* 電子版会報をお読みのみなさまには、別途、全国大会のご案内を電子メールで差し上げます。出欠については、そちらのメールにご返信くださいますようお願いいたします。

## ◆発表予定者をお願い

大会での発表をお申し込みの方は、発表要旨 (レジュメ) を 1,000 字程度にまとめ、3 月 31 日 (土) 必着にて郵便または電子メールで以下までお送りください。要旨集のレイアウトはパソコンを用いた簡単なものとなりますので、複雑な組版をご使用の場合は B5 判の印刷原稿 (版下) を郵送してください。

※発表要旨 (レジュメ) の送付先:

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前 3-2-1 四天王寺大学教育学部 拝田清

e-mail: tufs3haida@hotmail.com

\* 郵便の場合、「発表要旨在中」と添え書きください。

## )) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 267 回研究例会 2018 年 3 月 17 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 34 回全国大会 2018 年 5 月 19・20 日 (土・日) 広島で開催予定
- ◆ 第 268 回研究例会 2018 年 7 月 21 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 269 回研究例会 2018 年 9 月 15 日 (土) 広島で開催予定
- ◆ 第 270 回研究例会 2018 年 11 月 17 日 (土) 京都で開催予定
- ◆ 第 271 回研究例会 2019 年 1 月 12 日 (土) 東京で開催予定
- ◆ 第 272 回研究例会 2019 年 3 月 16 日 (土) 京都で開催予定

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (7 月発表希望であれば 4 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

## )) 英語教育史フォルダ

森悟先生 (鳥取県立米子南高等学校) には昨年 1 月の東京・千住での第 261 回研究例会において「武信の出会った人々: 森悟著『武信由太郎伝』を素材に」のタイトルでご発表いただきましたが、そのご著書『武信由太郎伝』(2016, 今井出版) が平成 29 年度の日本英学史学会奨励賞を受けられました。こころよりお祝い申し上げます。

**【公示】次期会長の選出について**

日本英語教育史学会会則第 7 条に基づき、第 34 回全国大会（広島大会）の際に開催される会員総会において次期会長を選出します。これに先立ち、事務局が選挙管理の役割を担い立候補を受け付けます。立候補者は、3 月 15 日（木）までに任意の書式をもって郵便、信書便もしくは電子メールで事務局長までお届けください。

**\* 立候補の届け先**

郵便・信書便の場合：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地 県立広島大学

河村和也研究室気付 日本英語教育史学会事務局

電子メールの場合： [membership@hiset.jp](mailto:membership@hiset.jp)

**日本英語教育史学会 第 267 回 研究例会**

日 時： 2018 年 3 月 20 日（土）14:00～17:00

場 所： 真宗教化センター しんらん交流館（京都市下京区諏訪町通六条下ル上柳町 199）

**研究発表①****「英語教育の歴史性を『教室』から考える」**

榎本 剛士（大阪大学）

【概要】本発表では、英語教育史研究において主流となっている「実証主義」的アプローチとは異なる視座から、英語教育の歴史性への接近を試みる。具体的には、時代（技術）的、認識論的などの理由により従来の英語教育史研究から排除されがちな「教室で実際に起きたコミュニケーション」の談話分析を行い、そこから、教室における実践が指し示す「コンテクスト」として、英語教育史を捉え直す。このことを通じて、(1) 英語教育の歴史が現在進行中のプロセスでもあること、また、それゆえに、(2) 「今」起きている英語教育が、様々なレベルの歴史の交錯を通じて立ち上がる出来事としても認識され得ること、以上の問題を提起したい。

**研究発表②****「西洋近代語教授理論の摂取：文部省官費留学生派遣を通じた摂取内容」**

西原 雅博（富山高等専門学校）

【概要】明治期英語教授法の近代化は、いわゆる「ナチュラル・メソッド」の系譜に立つ西洋近代語教授理論を摂取しながら進められた。その摂取は、外国人英語教師、日本人による著書や訳書、文部省官費留学生の派遣を主な方法として行なわれたが、本発表では三つ目の「英語教授法」専攻として派遣された留学生について、誰が、どこへ派遣され、そこでどのような近代語教授実践をみたのか等について述べてみたい。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 ([reikai@hiset.jp](mailto:reikai@hiset.jp))

- ◆研究例会はどなたでもご参加いただけます (予約不要)。
- ◆例会終了後に懇親会を行います。こちらにも奮ってご参加ください。
- ◆行楽シーズンですので、宿泊をご予定の方は、お早めに各自でご手配ください。

【会場案内】 (東本願寺 website: <http://www.higashihonganji.or.jp/about/access/pdfs/map.pdf> より)



【交通案内】

- ・JR 京都駅中央改札口より徒歩 12 分
- ・市営地下鉄烏丸線・五条駅 8 番出口より徒歩 3 分
- ・烏丸六条バス停より徒歩 1 分

**EDITOR'S BOX** 今年は例年に比べ厳しい寒さになっています。どうかご自愛くださいますよう。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 [geppo@hiset.jp](mailto:geppo@hiset.jp))